

テーマ ■ 遊びを通じた“創り出す”力の育成

●活用番組「しぜんとあそぼ」「つくってあそぼ」

コーディネータ 堀田 博史（園田学園女子大学）

発表者 越前屋彰子（北海道函館市立はこだて幼稚園） 佐々木 操（秋田県学校法人海山学園追分幼稚園）

制作者 工藤 俊二（NHKエデュケーショナル）

司会者 大野 紀子（東京都台東区立金竜幼稚園） 記録者 細江ヒサ子（前東京都港区立台場保育園）

1 発表内容

(1) 北海道函館市立はこだて幼稚園

①放送教育の考え：放送番組のもつ特性を理解し、放送を取り入れている。

②視聴・聴取の配慮点：集中しやすい環境構成、教師の位置などを配慮した。

③事例：「しぜんとあそぼ～赤とんぼ～」 「つくってあそぼ～パックのおもちゃ～」の視聴後の幼児の姿から、考えられることを導きだした。

④まとめ：視聴から得た意欲を受け入れ実現させていくことが「創り出す力の基礎」になり、「学ぶ意欲」を培うことができる。

(2) 秋田県学校法人海山学園追分幼稚園

①テーマの受け止め：視聴から受けた感動や発見をきっかけに、友だち同士で考え合いながら遊びを広げていくため、どのように体験させたいか考えていきたい。

②研究のねらい：放送番組を見て受けた感動や発見をもとに、友だちと一緒に体験したり考えを出し合ったりしながら、遊びを広げていくようになる。

③事例1：「しぜんとあそぼ～だんごむし～」

事例2：「しぜんとあそぼ～あしながばち～」

事例3：「つくってあそぼ～ころころランド～」

④成果と今後の課題：全園児が同じ番組を継続視聴することでイメージの共有ができ、言葉のやりとりや友だちとのかわりかかわりが異年齢でも活発になった。さらに子どもが主体的に遊びを創り出すために番組視聴を継続していきたい。

2 研究協議内容

・一方的に放映するのがテレビの特性であるが、制作者は先生方の実態にあった工夫に期待している。

・二つの実践を通して、保育者が子どもを理解し真剣に取り組んでいる姿に感動した。保育者の

かかわる力は大きいと実感した。

・保護者の中には、テレビを見せたくないという意見もあるので、実際の視聴の姿やその後の変容などを具体的に伝えていく必要がある。

3 指導講評

(1) 北海道函館市立はこだて幼稚園

・放送からヒントをもらい、自分なりに感じた物、考えた物を作って遊ぶ姿が多くなる。喜びや気づきが喚起され教師や友だちと思いを共有するなど、放送が動機づけになっている所がよい。

・視聴後に本や図鑑、インターネットで調べる、絵を描いて表現する、つくって遊ぶ、などさまざまな方法で活動が展開されていることは参考になる。

(2) 秋田県学校法人海山学園追分幼稚園

・視聴したことが模倣となり、その後、観察、工夫、共有を重ね、自分なりに考えて創造へと高めていく。この過程に保育者の素晴らしい援助があった。

4 まとめ

・保育でのテレビ視聴では、放送番組は、子どもたちの興味・関心を高め、遊びの見通しをもたせる中で、自ら遊びを創り出す力を育む。この過程における教育的配慮、保育者の援助、視聴のねらいが重要である。

